

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年12月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873700512		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム 玉造の里	ユニット名	なのはな
所在地	〒311-3501 茨城県行方市芹沢1652-10		
自己評価作成日	平成28年8月25日	評価結果 市町村受理日	平成28年12月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873700512-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年9月28日	評価機関 決済日	平成28年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所は、のどかで自然豊かな又、保育所・児童養護施設・県立高校など福祉や教育の機関が周囲に存在する恵まれた環境にあります。保育園が隣接し、リビングや居室からは元気な園児の様子が見え穏やかな懐かしい時間を過ごすことが出来ます。交流事業も数多くあり双方共に貴重な体験を積んでいます。関連施設には、病院（精神科ほか）・介護老人保健施設・介護老人福祉施設等の事業所があり、利用者様に合ったサービスの選択肢が豊富です。医療面のバックアップに加え、認知症に関する専門治療も受けられます。利用条件に合致すれば、車椅子や寝たきりの方の受入も可能です。

スタッフの定着率・学習意欲も高く、チーム活動を通し協調性にも優れていると自負しています。

徐々に地域の中に存在する実感はありますが、地域に根ざすところまでには至れません。介護に困っている方や認知症を理解したい方、福祉について学びたい方等の「よろず相談所」になれること、気軽に誰でも立ち寄れる場所となることを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は同一法人運営の保育園と隣接しており、事業所の居間兼食堂や利用者の居室から園児が園庭を駆けまわる姿を見ることが出来るほか、毎週火曜日に園児達が来訪して利用者とは交流していることは、利用者の楽しみとなっていたり、活気ある生活を送ることが出来る環境となっている。

管理者は職員一人ひとりが介護支援の向上につながるよう、頻りに職員を外部研修に参加させるとともに、受講した職員が講師となって伝達研修をすることで、全職員で共有している。

管理者は職員の意見や提案を出し易くするために、職員が気がついたことなどを自由に書ける「連絡ノート」の作成は、全職員による問題点の共有や早期解決に向けた仕組みとなった。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念および事業所の介護目標を朝礼時に全員で唱和し且つ玄関や共有スペースに掲げ日々実践しています。 また、チーム活動の中に「介護理念・実践チーム」を設け、取組みを強化しています。	代表者が作成した法人の理念と事業所の介護目標を事務室や玄関、各ユニットなどに掲示し、朝礼時に唱和したり新規採用職員の研修時にも説明をして共有している。 介護目標はあるが、事業所独自の理念を作成するまでには至っていない。	事業所独自の理念を作成することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区に準会員として加入しています。地区のレクリエーションに参加したり、施設行事への招待、ボランティアの受入、図書館利用、散歩時の挨拶など地域とつながりながら暮らせるよう努めています。	事業所は自治会に準会員として加入しており、自治会主催のレクリエーション大会に利用者と職員で参加している。 毎週火曜日に隣接する保育園児が来訪して交流しているほか、日曜日毎のボランティアが運営する図書館に、利用者と職員で出向き、お茶の接待を受けている。 事業所で認知症サポーター養成研修を開催し、地域住民の参加を得たり、施設の敬老祝賀会に地域のお年寄りを招待するなど、日常的に地域住民と交流を図っている。 楽器演奏やリハビリ体操、腹話術、習字などのボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアの受入、行事に地域の方を招くなどして認知症の理解や支援方法を伝えています。 平成27年度は、「認知症サポーター養成講座」を開催しました。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催、委員には、区長（民生委員）、家族、有識者、利用者、行政、管理者が参加し、意見交換をしています。 頂いた意見は、サービス向上やスタッフの士気高揚につながっています。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、区長兼民生委員、隣接の保育園長、管理者、職員で2ヶ月に1回開催し、議事録を作成している。 年度初めには肩書が入った委員名簿を配布しているが、会議録には出席者の氏名のみで、肩書を記載するまでに至っていない。 事業所からは行事や利用者の状況報告、事業所の取り組みや外部評価の結果報告などをし、参加者と意見交換を行っている。 避難訓練に消防団の参加を得られるよう、何度も声をかける必要があるとの区長提案を受け、この9月に団員8名の来訪が得られた。	運営推進会議録には、誰が見てもわかるように、参加者の肩書も記載することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行方市介護支援専門員連絡協議会に参加また、市担当者や地域包括支援センター職員との随時の相互訪問や情報交換により協力関係を築くように努めています。 行方市認知症介護アドバイザー・行方市認知症徘徊高齢者協力員にもなっています。	市担当者が毎回運営推進会議に出席しているほか、管理者は電話だけでなく、要介護更新申請などで直接市窓口に出向き、情報交換をしている。 事業所からは利用者や家族等からの金銭面での相談をしたり、市担当者からは入居相談を受けている。 生活保護担当職員が年数回来訪し、利用者の様子や相談などを聴いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内勉強会の開催や「身体拘束のない介護のための指針」を掲示し、正しい理解に努めています。現在、身体拘束者は居ません。 玄関、廊下の出入り口、居室（利用者がする場合を除く）ともに夜間以外は施錠しません。	廊下に「身体拘束のない介護の為の指針」のポスターを掲示している。 身体拘束排除に関するマニュアルを作成して年1回内部研修を行っており、参加できなかった職員には研修資料を回覧して周知し、全職員が禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を正しく理解している。 日中は玄関の施錠をせず見守り、身体拘束をしない介護に努めている。 やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、同意書や経過観察記録等の書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止（虐待防止）委員会を設置、勉強会を行っています。職員間には、虐待防止の考えは浸透しており相互に注意を払うことを徹底しています。本部通達や新聞、報道等で虐待について話があった時は、閲覧し注意を喚起します。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内では、2名が成年後見制度を利用中です。職員は、種々の研修で見聞を広めています。また、管理者が成年後見人として活動中のこともあり情報提供や相談は可能です。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時は、文書及び口頭で十分説明し、納得の上契約に至っています。改定時は、文書にてお知らせします。又、解約等事業所を退去される時は、今後の方向性や必要なサービスや利用法など利用者・家族が納得のいく将来を築けるよう支援しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口、第三者委員の設置、又年1回家族アンケートを行っています。面会時は、意見や要望が出しやすい雰囲気づくり、声かけに努めています。全職員が利用者の普段の会話や代弁して下さる家族等の意見を聞こうと心がけています。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、事業所内に掲示しているほか、玄関に意見箱を設置している。 利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは面会時などに意見や要望を聴くよう努めるとともに、年1回家族アンケートを実施し、結果は集計して広報誌と一緒に郵送している。 家族アンケートの結果を受けて、職員は言葉遣いに気を付けるようになった。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月職員会議を開催し、職員の意見を聞いているほか、委員会やチーム活動を通し積極的に意見交換し、出た意見や提案を運営に反映させています。	管理者は月1回の職員会議や日頃より、職員の意見や要望を聞くように努めている。 職員は11ある委員会にそれぞれ所属し、積極的に意見交換をしているほか、自由に意見や提案等を記載する「連絡ノート」を作成して管理者や職員で話し合う工夫を取り入れている。 職員の要望を受け、浴槽内に手摺の設置やベッド柵に保護カバーを用いて安全面に配慮するなど、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則・給与規定により職場環境や条件の整備に努めています。職員には、公平かつ平等に研修参加や資格取得の機会を提供し、又介護職員処遇改善加算を活用し、やりがいや向上心を持って就労できるよう図っています。施設内には、安全衛生推進者を置き、環境や条件の管理をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催では、新規採用時研修、上級救命講習会、スキルアップ研修、グループホーム勉強会が開催されています。外部研修にも積極的に参加します。事業所内には、研修・学習委員会を設け、職員の学習機会を自ら計画・実践し相互に伸びていけるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人傘下の同業種との交流や学習の機会はあるが、サービスの質の向上に努めているが、地域の同業者とのネットワークづくり等には至っていません。地域の介護保険施設等へは、情報交換や見学で訪問したり、市や周辺地域の行政等主催の研修に参加し同業種との交流を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には、本人・家族と面接をし、現状の把握とともに、困っていることやどうしたいのか等の思いの把握に努めています。不安を取り除くために、利用前の施設見学も実施しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちを思いやり介護へのねぎらいを忘れずに相談や利用前面接に臨みます。現状の把握と共に要望等を伺い、不安を取り除けるように十分に事業所としての姿勢やサービスについて説明します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があつた時、此処が本人や家族が望むサービスを提供できるか判断し、他のサービスが望ましい又希望される時は、サービスの選択肢の情報を提供、関係機関と連携し他につなぐよう努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過去の経験や生活歴を大事にし共に暮らす視点で介護にあたります。風習や慣習、過去と現代の違いの中、世代間交流が上手く図れており利用者の姿や言動に学ぶことが沢山あります。互いに感謝の言葉が日常的に聞かれます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族の絆の大切さを理解しており、日常の様子を文書や電話、面会時を利用してお知らせします。家族も通信（電話・葉書等）、外出、面会を通し利用者を支える関係が途切れないよう支援して下さっており、施設・家族が共に本人を支える良い関係が築けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・電話・手紙・外出・外泊等制限せず可能な限り自由にして頂くことに努めています。地域の祭りや行事に参加したり、馴染みの場所にドライブしたりと家族と協力し合っ、良い思い出が残せるよう又懐かしい記憶に浸れるよう努めています。	入居時の聴き取りによるフェイスシートや連絡ノート、利用者との日々の会話などから、これまで築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して寛いで過ごせるような雰囲気づくりをしているほか、馴染みの床屋が来所したり、墓参りへの同行、家族等との外食など、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に関わりながらグループ活動を支援したり、互いに助け合う場面を意図的に設けたりと孤立化しない介護に努めています。 利用者に互いを理解して頂くことは困難ですが、適時に関わることで良い関係を築いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、病院や施設を訪問したり、その後の経過を家族に問い合わせる等しています。利用終了が最後の関わりではなく、その後も相談に応じたり、次のサービス提供に至るまで出来ることの支援をするよう努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来ることやしたいこと、どうなりたいか等の思いを利用者や家族、関係者から利用に至るまでに情報を得るほか、利用者との日々の関わりの中で思いや意向を把握しています。意志の表出の困難な方には、意を察して本人らしく暮らせるよう介護しています。	管理者と職員は、利用者の表情や仕草、態度のほか、個人記録から一人ひとりの思いや希望の把握に努めるとともに、職員会議や連絡ノートで周知して共有している。 意思の表出が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時に話を聴いたり、表情や仕草から思いや意向を察して利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前面接で本人、家族、担当ケアマネ、その他関係者から情報を収集し、これまでの暮らし方等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の大まかな日課はあるが、その人らしく過ごせる時間も設けません。毎日各人毎に「アセスメントシート」（1日の生活の経過）を作成、心身の状態や経過・行動を記録し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族等の意見を伺い作成しています。半年に1回モニタリングを実施、全職員で介護計画を見直すほか、状態に変化があった時は、随時現状に合った介護計画を作成します。アセスメントには、包括的自立支援プログラムと一部センター方式を使用しています。	介護計画は利用者や家族等の意向及び要望並びに医師の意見を取り入れている。 基本6ヶ月毎に管理者や計画作成担当者、職員でカンファレンスを行い、そこでの意向等をもとに介護計画を作成し、面会時や請求書送付時に家族等から同意を得ている。 モニタリングと短期目標、長期目標は6ヶ月毎に設定し、利用者の状態等に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に随時見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシート、ケース記録は各人毎にファイリングし、バイタル表や排泄・入浴記録簿は職員が活用しやすいように集的に記録、各人毎に転記します。その他申し送りノートを利用し情報を共有して介護に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別的にその人らしく暮らすことを基本方針としています。通院や外出、買物等介護保険対象外サービスも必要に応じて行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や行方市介護支援専門員連絡協議会や行政等の情報交換を通し、地域資源を把握します。民生委員や区、図書館、スーパー、ボランティア、消防署などを資源として活用しながら豊かな生活を送れるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に本人、家族の希望を伺います。利用前のかかりつけ医とすることが多いが、その時の状態により納得の得られた近医や往診とする場合もあります。依頼があれば受診時に付添い、結果を家族等に連絡します。緊急時については、利用前に受診医療機関を話し合い了解を得ておきます。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能かことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、確認を得ている。かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本とし、家族等が付き添えない場合には職員が付き添い、受診結果は電話や請求書送付時に同封し報告するとともに、連絡ノートやケース記録に記載して職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職員の配置はありません。かかりつけ医や協力病院、法人傘下事業所の看護職と連絡を取り相談や知識を得たりしながら、日頃の健康管理や受診、処置等についての支援を受けています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、馴染みの関係が保てるようにマメに様子を見に行き医療機関（関係者）より情報提供の機会を設けています。家族への病状説明時に同席させて頂き治療方針を共有、退院後の対処法についても相談しながら行います。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を作成しているが、体制が未整備であり事業所では現段階では重度化や終末期のケアは出来ないことを契約時に利用者、家族等に説明し承諾を得ています。	看取り介護に備えて「看取り介護の指針」と「看取り介護についての同意書」を整備しているが、契約時に利用者や家族等に「医療上の必要への対応についての同意書」にて事業所では看取り介護を現状では行えないことを明記し、書面にて同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人において、上級救命講習会を全職員が受講しており救命技能を有すると認定されています。AEDの設置もあります。事業所内でも勉強会を行っています。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を中心とした総合避難訓練を消防署立会いのもと年2回実施のほか、事業所独自に随時避難誘導訓練を行っています。災害の発生に備え食糧や飲料水等の備蓄もあります。隣接した福祉施設との協力はありますが、地域との協力体制は万全ではありません。	消防署立ち会いのもと、訓練の実施要項を作成して夜間想定を含む避難訓練を年2回実施しているが、訓練後に話し合った反省点や今後の課題などを記載した、実施記録を作成するまでには至っていない。 事業所独自の避難訓練を雨天時には地震訓練に変更しながら毎月行い、訓練の記録を作成している。 災害に備えて米や水、レトルト食品、缶詰、おむつ類、医薬品、ラジオ、ライトなどを一覧表を作成して備蓄している。	年2回の避難訓練実施後に実施記録を作成し、話し合った反省点や次回につながる課題なども記載することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーに配慮して、さりげない言葉かけや誘導をしています。人生の先達であるとの認識です。 個人情報の取り扱いについては、「個人情報に関する指針」に沿って行っています。	プライバシー保護に関する内部研修を実施し、職員は利用者の人格を尊重するとともに、自尊心に配慮した言葉かけを心がけている。 個人情報の取り扱いについては、契約時に家族等から書面にて同意を得ている。 個人情報に関する書類は、施錠できる書棚に保管し、取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添い、言動の見守りや職員の働きかけで見えてくると考えます。思いを察する場面も多くなっているが、表情、しぐさ等を見逃さないように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、各人の体調や気分配慮し、個々のペースに合わせた本人本位の生活を送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族に好みを伺い、買物と一緒に外出し購入したり、家族に持参して頂きます。希望により訪問理容が利用できます。室内の片づけと一緒にしたり、その日の服装を自ら選べる支援も行います。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の苦手な献立には、代替品を用意したり、盛り付けに工夫をし食べやすくしています。能力に応じて食器の下膳や配膳、テーブル拭きを職員と一緒にしています。お花見等の行事には、利用者と一緒に献立を考えるなど食事を楽しむ支援をしています。	献立は利用者の好物や苦手な物を踏まえて同一法人の栄養士が作成し、自家菜園で収穫したトマトやパプリカを食材に加えながら、職員が調理をしている。 苦手な食材の時には代替え食を用意し、家族等が参加する敬老会やクリスマス会などには、行事食を提供するなど、食事が楽しめるよう配慮している。 年2回の外出支援や家族等と外出に出かける利用者もいる。 介護度が高い利用者が多いため、職員は利用者の食事介助後に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は、個々のアセスメントシートに記録し把握します。献立等は外部に委託し栄養士により管理されます。医師の指示や本人に合わせた形状や量を提供、お茶などの飲み物は時間で用意するほか、随時自由に摂れるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	物品準備や声かけ、見守り、誘導など本人の能力に応じ毎食後対応しています。不十分な方には、毎食後職員が介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録簿、アセスメントシートを用い、個々の排泄パターンを把握、時間や機会を見計らって声かけやトイレ誘導をしています。排泄感覚の無い方にも定時又は様子を伺いながら、トイレで排泄できるよう支援しています。夜間もP-トイレ介助によりオムツの使用を減らすよう努めています。	職員はアセスメントシートやカレンダーに利用者が自己申告して記入した記録などを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知してさりげなく声かけ誘導し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 職員の適切な声かけにより、おむつから紙パンツに移行した利用者がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し有無を確認します。体操や散歩、レクリエーションによる運動や水分摂取量を増やす、ヨーグルトやヤクルトの摂取で便秘を予防するよう支援しています。医師による下剤服用の利用者もいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきの入浴ですが、毎日の入浴も可能です。入浴を拒む方には、声かけを工夫しながら行います。必要時は、清拭やシャワー浴も取り入れます。	入浴は一日おきを基本としているが、利用者の意向にそっていつでも可能となっている。入浴を拒む利用者には職員を替えたり、時間帯を変えるほか、興味のある話をしながらさりげなく浴室まで誘導している。柚子湯や菖蒲湯で季節感を取り入れるなど、入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態や希望・習慣に合わせ、安眠、休息が出来るよう室内の温度や明るさ、音などに配慮しています。疲労や気分により、日中でも自室で休息出来るよう気を配ります。日常的に安定した穏やかな心身状態で夜を迎えられるよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、ファイリングし全職員が理解しています。利用者全員が服薬管理を必要としており、配薬ミスや誤った服用を防ぐ為、服用時には名前・日付・服薬時間帯を声に出し確認します。症状については、アセスメントシートや申し送りノートを活用して情報を共有し、必要があれば受診します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を重視し、能力を活かした役割や生きがいの持てる生活が出来るよう介護計画を立て実践しています。「今」を大事にして、出来ていることが継続できる支援を重要視しています。利用者の中には、友人や保育園児にプレゼント品を作っている方も居ます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出かけたり、外気浴やドライブ、買物に行くなどの支援をしています。また、地域のお祭りや時節に合わせた行事に誘うなど季節感や地域とのつながりを失わぬように努めています。家族等には、出来る範囲での協力要請をします。	天気の良い日には、利用者と職員で事業所周辺を散歩し、野草や花を摘んで来るのを楽しみにしている利用者もいる。 年間行事計画を立てて、家族等の協力を得ながら車いすの利用者も一緒に、あやめや紫陽花などの花見、茨城空港へ外食を兼ねたドライブ、地域の祭り見学など、普段行けないような場所への外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な方は居ません。しかし、一緒に買い物をしたり、買物時にお金を渡し使用するなど能力に合わせて支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等通信の制限は無く、いつでも利用できます。自ら利用できない方には、職員が日頃の状況を伝えたり、「思い」を代弁します。「年賀」「ふみの日」には、本人による葉書（名前のみ自書の方あり）を出しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々人が快適に過ごせるよう、においや光、音や色、室温などに配慮すると共に、介護者や面会者による刺激（声の大きさや話し方、態度）にも気をつけています。リビングには、季節の花を置き、季節を感じられる作品と一緒に作り飾って楽しむなど居心地の良い空間となるよう工夫しています。	玄関には手指消毒薬とマスクの設置、運営推進会議録簿や広報誌などが自由に閲覧できるように置いてある。 廊下には利用者の習字作品や、居間兼食堂には季節の折り紙作品を掲示している。 浴室には転倒防止に椅子を配置し、トイレには介助バーを設置するなど、安全面に配慮している。 廊下の各所に洗面台を設け、車いすの利用者も使い易い高さとなっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階のため、景色も広く見渡せ爽快感があります。テレビ、ソファのあるリビング兼食堂は、キッチンに面し、職員や利用者同士が会話しやすい造りとなっています。気の合う利用者が話しやすいように座席の配置に工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族等と相談し、使い慣れた家具や好みの小物を置いています。家族等の写真を飾ったり、保育園児の作品を置くなど居心地良く過ごせるよう支援しています。	居室にはカーテンやエアコン、整理箆筒、ベッド、押し入れが備え付けられている。 管理者は入居時に使い慣れた物品を持参して貰えるよう説明しており、利用者は家族等と相談しながら使い慣れた寝具類や衣装ケース、目覚まし時計、テレビ、椅子、家族の写真、ぬいぐるみなどを持ち込んで、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、居室には目印を付けるなど工夫しています。出来ることや分かることが継続できる介護、寄り添う介護に努めています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム玉造の里

作成日 平成29年1月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所独自の理念を作成することを期待する。	事業所独自の理念を作成する。	平成28年12月末までに全スタッフが個々に理念を考えた。それを全スタッフで協議し、今年度末までに事業所独自の理念を作成する。	3か月（平成28年度末）
2	4	運営推進会議録には、誰が見てもわかるように、参加者の肩書も記載することを期待する。	平成28年11月開催の会議より肩書を記載する。	平成28年11月開催の会議より肩書を記載する。	平成28年11月18日より実施。
3	13	年2回の避難訓練実施後に実施記録を作成し、話し合った反省点や次回につながる課題なども記載することを期待する。	実施計画、実施記録、反省点、課題などを記入できるシートを作成し、情報を共有できる。	1. 記入用紙の作成。 2. 訓練実施後、参加者で反省点・課題を話し合い記録する。 3. 職員会議で情報を共有する。	平成29年訓練時より実施する。
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。